第3回市政モニターアンケート集計結果

○アンケート期間：平成25年11月24日～平成25年12月16日

○アンケート回答者数：37人

高島市学校規模適正化（学校再編）基本方針案に関するアンケート

Q1 学校の小規模化により生じている複式学級等の課題を解消するために、小学校の統廃合を進める今回の基本方針案へのご意見をお聞かせください。

	意見要旨
1	概ねこの内容でよい。小学校の統廃合は当然の流れである。基本方針にあるように通学の遠距離化にともなうフォローが必要。
2	マキノ地域では合併前から話が進められてきているようなので、地元の協議を尊重して考えていかれたい。
3	賛成です。説明のとおりだと思いました。
4	前向きに進められてよいと思います。実質的な授業時間が少ない複式が学級の授業が気になります。卒業された方は残念な気持ちでしょうが、昔の思い出より今の子供の健やかな成長優先で進めていただきたいと思う。
5	基本方針を出されたことには大歓迎です。各地域の事情、意見も多々あることと思いますが、それは大人の意見であって子ども達に影響を及ぼすことがあってはならないと思います。当廃校後の学校施設の跡地については多々有効利用の名案が出てくるはずです。
6	統廃合は今の現状では仕方ないと思います。子ども達にも沢山の仲間と過ごす方が人間性、競争力等、多々プラスになるのではないのでしょうか。統廃合による地域との繋がりは工夫次第で保てると思います。
7	子どもが少なくなった以上、統廃合は仕方ないと思います。
8	学校再編はやむを得ないと思う。基本方針案については、教育のプロが考案したものであるため案どおりで異論はない。統廃合で配慮願いたい事柄は以下のとおり。児童・保護者の環境変化への適切な対応。通学の安全確保と体力の維持策。交付税の減額による維持管理費の捻出。卒業生の母校への愛着心・懐古心の払拭。教職員の再雇用。
9	小学校の統廃合は現実問題として仕方ないと思います。学童は子ども同士で遊び、学ぶのが一番望ましい。親も同じ考えと思う。ただ、行政は少子化対策にも努めてほしい。
10	子ども達はいずれは必ず集団社会へ出ることになる。集団社会への対応は簡単にできるようなものではなく、小さい頃からの訓練で身につくため、親や地域の大人の利権やプライドなどは無視して一刻も早く子ども達のために統合してあげるべきである。
11	人は住んでいる環境に左右される。まして児童の教育環境は、後の人格形成や人生にも影響する。

	意見要旨
	いかに優秀な素質をもった子供でも、優れた先生や切磋琢磨できる仲間に恵まれないとその成長が阻害される可能性が高いと思う。統廃合を進めることは賛成だが、遠隔地の児童は高島町のようなスクールバス通学などの方策が必要と考える。
12	基本方針は的確にまとめられていると思います。特に意見はありません。
13	少人数の問題は早急に解決すべきだと思う。変化の速さに対応する力も必要だと思うので、必要に応じてどんどん案を進めるのが良い。
14	学校再編の基本方針案には賛成です。小さい学校から大きい学校に変わる子どもは慣れるまで大変だが、長い目で見て、ぜひ学校再編の計画を推進していただきたいと思う。
15	せめてクラス替えができる人数が確保できるよう統廃合を進めるべきだと思います。基本方針案は、現状をよく調べメリット、デメリットが分かり易く方向性には賛成です。
16	賛成です。遠方になる場合はスクールバスなどの交通手段によって安心して通学できる。
17	様々な観点から統廃合を進めても良いと思います。
18	基本方針案には賛成です。
19	地域住民に理解してもらって早く計画どおりに進められるといいと思います。
20	旧新旭町の小中学校の規模がちょうど良い適正規模だと思っている。せめて1学年2が級以上の学校再編が必要と考えます。そんな環境が可能になるなら学校再編も良いと思います。教育コストの削減が目的なら問題ですが。
21	少子化による児童数の減少によっての小学校の統廃合はやむを得ないと思います。対象となる地域では早い段階から住民懇談して進められればよいと思う。
22	時の流れで小学校の統合は当然だと思います。ただ、4小学校を1校にする場合、新校舎を建てるには財政ひっ迫の折、多額の経費が必要だし、一方どこかの既存校舎を活用する場合は各地元の地域エゴなどから結論が出るとは思えない。既設の中学校の近くなら市民合意も得やすいと思う。
23	この方針案には賛成です。母校がマキノ北小ですが、統合後も地域との交流などをしてもらえると地域のお年寄りも喜ばれると思う。
24	小規模や複式のデメリットを考えると統廃合の早期着手には大いに賛成です。
25	統廃合を進める上で、使用されなくなった建物はどうなるのだろうか。例えば、住民の憩いや福祉の場、モノづくりや伝承の場、避難場所などが考えられる。また、そこで勤務されていた方の雇用が気になる。
26	複式学級に課題が多く教育に大きな支障を来す。そのため、市独自の臨時講師を雇用し、少しでも教員数を増やせば解消できると考えます。
27	学力面は少人数でも方法によって成果を得られますが、生活面、社会性醸成は一定規模の集団でないと築けない。従って、マキノ地区、朽木地区は勿論、今津地区でも安曇川地区でも1校に統合が好ましく、現行案よりもっと先を見つめた長期方針の立案が必要。
28	移住して間が無くよくわかりませんが、高島市全体で通学範囲を考え児童数が平均になるように考えることは難しいのでしょうか。バス通学であれば隣町に行くことも可能なはず。一番に考えることは、子ども達が有意義に学校生活を送ることにあると思います。

	意見要旨
29	学校規模の適正化で教育委員会がめざすものが、この方針案からはイメージできません。また、この案が正式に基本方針となる手続きや期間はどのようにでしょうか。市の学童再減少のピークを何年、何人と予測されていますか。その未来の数字に対して今回の案は誤差が出ませんか。財政規模が縮小するなかで、施設の再利用・再活用については最大限考慮されていますか。
30	統合を願う人、そのままが良いという人、お互いの意見を聞いたうえで最善の方法をとってほしい。私は、小学校の頃は家庭的な雰囲気で見守る方が良いのではと思うし、その内容が良ければ、都会からくる家族もいることと思います。少人数特有のプログラム作りの検討も必要かと思えます。
31	小学校と中学校を統合校舎とし、高島と新旭のほかに、朽木は安曇川に、マキノは今津に統合し、市内4か所の統合校舎として、雪の多い所の児童生徒のために宿舎をつくる。
32	既に卒業した方の母校に対する思いを引っ張っていたら今の子ども達が犠牲になる。再編後の小学校は、マキノ1校、今津1校、新旭2校、安曇川1校、高島1校が本市の「適正規模」だと思う。この機会に思い切った再編をしないと数年後に再々編が待っている。そこに踏み切らないのは無責任です。大胆な再考をお願いします。
33	自分の子どもが卒業して長年が経過しており最近の学校の状況がわからないので、意見は無しとさせていただきます。
34	少子化が進んでいることにとっても驚いています。少人数でコミュニケーション能力が育ちにくいという面は大変気になる。市外や県外私立校への進学も多いと聞いている。教育委員会の考える学びと保護者の考える学びにギャップがないか、子育て中の方の意見を聞く必要があると思う。

Q 2 学校の再編に限らず、高島市の教育行政全般について、気になることやご意見がありましたらお聞かせください。

No	意見内容
1	●子どもが地域に愛着を持てるよう、高島市の郷土学習を積極的にしてほしい。例えば、朽木中学校の体育祭で生徒が沖縄のエイサーを被る等、他地域の伝統芸能に一生懸命取り組んでいるが、その一方で、今にも消えそうな高島地域の伝統芸能・行事があるのはおかしいのではないか。
2	●現在通学補助の対象となっていない地域に関して、事故・事件等を防止するため、悪天候時だけでもバスで登校させてもらえないだろうか。(通学バスの運行、路線バス利用の補助で)市内でもスクールバスのある地域とない地域があるため、通学保障の基準を明確に決めてほしい。 ●幼稚園と保育園の保育料にもっと差をつけてほしい。保育園に比べて幼稚園は夏休みが長いにもかかわらず、8月の保育料は幼稚園・保育園とも同じように引かれている。
3	●子どもを教育する上で、①挨拶ができる②感謝を忘れない③詫びることができる (言い訳

	<p>をしない) ④何う気持ち(元気が、友達と仲良くしているか等)の4つを素直に口にできる教育・指導をしていただきたい。これから先社会生活を営む上で重要となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大人から子どもを評価するとき『いまの子は』ということが多いが、子どものように完璧でない人間を評価する際にはあってはならないことなので、『いまの子は』をなくす教育を望む。 ●教職員不足で、十分に子どもたちの面倒を見るのが難しいことは承知しているが、創意工夫をして教育に努めてもらいたい。 ●いじめ・不登校・万引き等問題が発覚したとき、教育機関が家庭や地域に協力を求めているように思えない。悪い事柄も公表して、皆で解決に取り組み大事に至らないようにすることが肝要である。 ●学校は教育機関であると同時に、地域の人々をつなぎ、文化・風習を継承する拠点でもあることを日頃から認識しておくべきである。
4	<ul style="list-style-type: none"> ●高島市の学力レベルは全国で見るとかなり低いのではないかと。隣の福井県は全国トップクラスの学力レベルを毎年キープしており、見習ってほしい。福井県の高浜町では親の教育に対する熱心が違ったので、学力レベルを上げるため児童の保護者への啓発にも尽力してほしい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ●高島市は近江聖人中江藤樹先生生誕の地でありながら、学校教育の中で藤樹先生の思想や現代に活かすべき教訓について教える時間が大変少ないように思う。愛媛県大洲市では、市を挙げて藤樹先生の顕彰と、その思想を生かす教育施策を実践している。高島市でももっと藤樹先生をはじめ郷土の先人のことを学校で教える必要がある。 ●定年退職後など大人が藤樹先生や郷土の先人のことを学びたいというニーズがあると思われるので、高島市が『生涯学習都市』宣言をして市民および全国に発信することが重要である。
6	<ul style="list-style-type: none"> ●授業時間が不足しているように感じるので、土曜日にも登校するべきだと思う。
7	<ul style="list-style-type: none"> ●藤樹先生、高島屋創業者、継体天皇伝説、秀真文字、ヨシ笛、高島市を詠った万葉集の歌など、子どもたちには高島の誇るべき物事をしっかり教えてほしい。そのような教育が足りない。
8	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者や児童生徒のことをよく考え、配慮いただいているので特に気になることはない。
9	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の学力があまりに低い。学力向上について何か対策はあるのか。
10	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校の教育においては、特に知育が重視されなくてはならないと考えられるので、小学校の学級は適正な基準に基づいた編成が必要である。 ●小中学校では学習教材としてインターネットが普及していると思うが、これを最大に有効活用しているのか。あらゆる場面で不足を補うことができると考える。 ●今後小学校にも英語教育を取り入れるようだが、このことの対策も考えるべき時期になっているのではないかと。
11	<ul style="list-style-type: none"> ●通学路の安全確保 ●放課後学童の充実

	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス編成・1学級の適正な児童数の検討 ●いじめに対する対応・対策
12	<ul style="list-style-type: none"> ●高島は商人の町・文化の町・城下町である。このような他市とは違った側面を自覚すれば高島独自の教育を行うことができる。全国どこにでもある教育ではなく、何をすれば地域性・風土性が生かせるのか考え、高島の特質を生かした教育をしてほしい。
13	<ul style="list-style-type: none"> ●高島の少子化の実態をみて不安感を抱いた。学校再編だけでなく広義の少子化・人口減少問題として取り扱うべきである。企業誘致、若者の雇用先や住宅の確保、京阪神への通勤手段の充実を考え、人口流入と定着を検討すべきではないか。 ●知名度が高い、話題性のある学校をつくってほしい。学力・スポーツ・芸術など、どれでもいいので一面に秀でた学校づくりを目指してはどうか。
14	<ul style="list-style-type: none"> ●教育は学校だけでできるものではなく、義務教育だけが教育ではない。出生してから成人までという長い目で、保育園や乳児園、保健センター等とつながりを密にもって教育行政を推進してほしい。
15	<ul style="list-style-type: none"> ●小中学生も高校生も、自ら挨拶をしてくれる。この美風が継承されるよう、学校関係者の一層の啓発を望む。
16	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会や、教育に携わる立場にもっと女性が介入すべきである。 ●子どもの未来はどのように展開されていくかわからないので、多くの最前線で働く人々と交流できる機会を与える教育がよいと考える。 ●心の教育に焦点を当て、青少年の育成活動を行っているが、積極的に協力してくれる教育関係者がほとんどおらず、宗教的なものではないかと疑われてしまった。これは新しい物事を拒絶する教育委員会のシステムが原因ではないか。 ●最近学校が荒れているが、それは子どもの気持ちを理解できない大人の問題であり、その子を取り巻く家庭の問題である。その面を改善せず子どもを変えようとしても無意味である。 ●英語教育に関してALTから聞いた話だが、子どもが授業に参加していない。文科省が指示する教育内容が良くないのではないか。 ●このようなことは文章ではなくディスカッションして話し合う場が必要である。
17	<ul style="list-style-type: none"> ●児童数名のグループで里親のような社会活動はできないか。 ●学校農園は行われているが、以前はスクール農園として様々な野菜の栽培がされていた。植物を育てる教育もいいのではないかと思う。 ●交通量の多い通学路に融雪設備が整っていないため、特に下校時に水を浴びてしまっている児童を見かける。早急な対応を望む。